2017（平成29）年9月 実施

第46回
足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／スポーツ／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／
「孤立ゼロプロジェクト」など／協働・協創／区の取り組み

2018（平成30）年3月
足立区

は　じ　め　に

平成２９年９月に実施した「第４６回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。

本調査は毎年９月、区民の皆様の中から無作為に抽出した３千名を対象に行っています。毎年繰り返し伺うことで経年の変化を把握するための設問、その年、特に傾向をつかむ必要のある設問など、全体で６８問の構成となっています。本年も１，６６４人（回収率55.5%）の方にご協力いただきました。心から御礼申し上げます。

当区に対するマイナスイメージの源は、区内外の方々による「治安が悪そう」という印象によるところが大きいと考えています。そこで、ビューティフル・ウィンドウズ運動を展開し、刑法犯認知件数を抑え込むとともに、区のイメージアップにも力を入れてきました。その結果、認知件数はピーク時の約６割減、住んでいる地域の治安に関して「良い」との回答が54.3%と過去最高となりました。

重要度が高いと感じる施策でも「治安対策」が上位を占めていることから、区として今後も力を入れて取り組み、今回調査の結果それぞれ49.2%、74.2%まで高まってきた区に対する「誇り」「愛着」の気持ちを一層強めていただけるよう進めてまいります。少子・超高齢・人口減少社会を背景に、ソーシャルキャピタルの弱体が危惧される現在、住んでいるまちを大切に思う気持ちの醸成は、区を支える目に見えないエネルギーと考えるからです。

区政満足度は現在と同じ質問を開始して以来、初めて６割を超えました。一方、24%とほぼ４人に一人は「不満」を感じておられます。この点をしっかり分析し、今後の区政運営に活かしてまいります。

平成３０年３月

足立区長　　近藤 やよい

目　次

第１章　調査の概要 ･･････ 1
１．調査の目的 ･･････ 3
２．調査の内容 ･･････ 3
３．調査の設計 ･･････ 3
４．調査地域 ･･････ 4
５．調査方法 ･･････ 5
６．回収結果 ･･････ 5
７．報告書の見方 ･･････ 7
８．標本構成 ･･････ 10

第２章　調査結果の要約 ･･････ 15
１．定住性 ･･････ 17
２．大震災などの災害への備え ･･････ 18
３．洪水対策 ･･････ 19
４．区の情報発信のあり方 ･･････ 19
５．健康 ･･････ 20
６．スポーツ ･･････ 21
７．ビューティフル・ウィンドウズ運動 ･･････ 22
８．環境・地域活動 ･･････ 23
９．「孤立ゼロプロジェクト」など ･･････ 24
１０．協働・協創 ･･････ 25
１１．区の取り組み ･･････ 26

第３章　調査結果の分析 ･･････ 31
１．定住性 ･･････ 35
（１）居住地域の評価 ･･････ 35
（２）居住地域評価の経年比較 ･･････ 49
（３）地域の暮らしやすさ ･･････ 55
（４）特に暮らしにくいと感じること ･･････ 61
（５）定住意向 ･･････ 65
２．大震災などの災害への備え ･･････ 75
（１）備蓄や防災用具などの用意 ･･････ 75
（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 ･･････ 79
（３）備蓄量 ･･････ 83
（４）災害発生時の水や食料の確保 ･･････ 88
（５）家具類の転倒・落下・移動防止対策 ･･････ 91
（６）対策をしていない理由 ･･････ 94
（７）地域の避難場所の認知 ･･････ 97

（８）避難場所の認知経路 99
（９）大規模災害時の避難生活場所 101
（１０）大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと 103
３．洪水対策 109
（１）「足立区洪水ハザードマップ」の認知 109
（２）河川はん濫による浸水被害の際の対処 112
（３）荒川がはん濫した際の最初の避難先 119
４．区の情報発信のあり方 125
（１）必要な時に必要とする区の情報の入手状況 125
（２）区の情報が得られない理由 127
（３）区の情報が得られない理由の詳細 129
５．健康 133
（１）区のキャッチフレーズの認知状況 133
（２）糖尿病の進行による病気や障がいの認識 135
（３）野菜から食べ始めることの実践状況 138
（４）１日野菜350ｇ以上の摂取 140
（５）体調や習慣 142
（６）健康維持のために実行している、心がけているもの 148
（７）がん検診制度の感想 151
６．スポーツ 155
（１）日常的な運動・スポーツの実施状況 155
（２）継続的に実施している運動・スポーツ 157
（３）運動・スポーツを行っている場所 160
（４）障がい者スポーツへの意識・行動 162
（５）スポーツボランティア活動への意識・行動 164
（６）2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること 166
（７）区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識 168
７．ビューティフル・ウィンドウズ運動 173
（１）「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況 173
（２）「花のビュー坊プレート」の認知状況 176
（３）治安が改善していることの認知 178
（４）居住地域の治安状況 181
（５）区内の治安が良いと感じる点 185
（６）区内の治安が悪いと感じる点 188
（７）治安対策として区に力を入れてほしいこと 192
（８）駐車時の鍵かけ状況 195
８．環境・地域活動 203
（１）環境のために心がけていること 203
（２）「Ｒのお店」の利用経験 206
（３）この１年間に参加した活動と今後の参加意向 208

９．「孤立ゼロプロジェクト」など ･･･ 217
（１）「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況 ･･･ 217
（２）「地域包括支援センター」の認知状況 ･･･ 220
（３）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向 ･････････････････････････････････････ 223
（４）協力意向がある活動内容 ･･･ 226
（５）「成年後見制度」の認知状況 ･･･ 228
１０．協働・協創 ･･･ 233
（１）「協創」の認知 ･･･ 233
（２）協働・協創の実践 ･･ 235
（３）区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価 ･････････････････････････････ 236
１１．区の取り組み ･･ 241
（１）満足度と重要度 ･･･ 241
（２）区政への区民意見の反映度 ･･ 277
（３）区に対する気持ち ･･ 280
（４）区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答） ･････････ 291
（５）区政についてのご意見、ご要望（自由回答） ･････････････････････････････････････ 294
（６）本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度 ･･････････････････････････････ 299

第４章　使用した調査票 ･･･ 301

第１章　調査の概要

１．調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

２．調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

（１）定住性
（２）大震災などの災害への備え
（３）洪水対策
（４）区の情報発信のあり方
（５）健康
（６）スポーツ
（７）ビューティフル・ウィンドウズ運動
（８）環境・地域活動
（９）「孤立ゼロプロジェクト」など
(10) 協働・協創
(11) 区の取り組み

３．調査の設計

（１）調査地域	足立区全域
（２）調査対象	足立区在住の満20歳以上の男女個人
（３）標本数	3,000サンプル
（４）調査対象者の抽出	足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法
（５）調査期間	平成29年９月１日（金）～９月25日（月）
（６）調査機関	（株）サーベイリサーチセンター

４．調査地域

図１　地域区分図

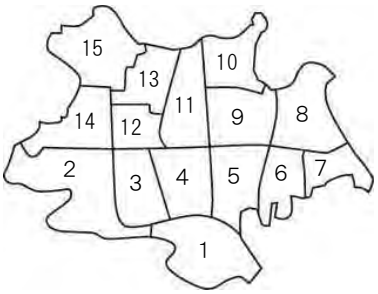


表１　調査地域－町丁目対応表

地域名	地　区　町　丁　目　名
第１地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第２地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第３地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第４地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第５地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第６地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第７地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第８地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第９地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園、

５．調査方法

（１）調査方法　郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに１回）

（２）調査票　　４章の調査票を使用

６．回収結果

（１）標本数　　3,000票

（２）有効回収数　　1,664票　　有効回収率　　55.5％

（３）回収不能数　　1,336票　　回収不能率　　44.5％

（４）地域別回収結果

表２　調査地域別回収結果

地域名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区　全　体	572,373	100.0％	3,000票	1,664票	55.5％
第 1 地 域	65,387	11.4	332	194	58.4
第 2 地 域	40,728	7.1	216	124	57.4
第 3 地 域	34,443	6.0	182	99	54.4
第 4 地 域	49,092	8.6	260	159	61.2
第 5 地 域	52,226	9.1	276	145	52.5
第 6 地 域	36,417	6.4	193	110	57.0
第 7 地 域	27,138	4.7	143	81	56.6
第 8 地 域	45,811	8.0	243	133	54.7
第 9 地 域	37,528	6.6	198	99	50.0
第10地 域	27,595	4.8	146	76	52.1
第11地 域	47,147	8.2	250	130	52.0
第12地 域	23,453	4.1	124	63	50.8
第13地 域	28,006	4.9	148	90	60.8
第14地 域	31,463	5.5	166	92	55.4
第15地 域	25,939	4.5	123	66	53.7

（20歳以上人口は平成29年８月１日現在）

※有効回収数のうち３票は地域不明

（５）性別・年代別回収結果

表３　性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全　　体	3,000票	1,664票	55.5%
男性（計）	1,507	724	48.0
20　　代	215	57	26.5
30　　代	253	98	38.7
40　　代	338	144	42.6
50　　代	242	123	50.8
60　　代	221	150	67.9
70歳以上	238	152	63.9
女性（計）	1,493	908	60.8
20　　代	202	69	34.2
30　　代	209	118	56.5
40　　代	296	170	57.4
50　　代	223	154	69.1
60　　代	195	141	72.3
70歳以上	368	256	69.6
無 回 答		32	

（注）この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」（計）の数とは一致しない。

７．報告書の見方

（１）回答の比率(％）はすべて百分比で表し、小数点第２位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100％に満たない、または上回ることがある。

（２）複数回答の設問は、各選択肢を１つだけでなく、２つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100％を超える場合がある。

（３）グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。

（４）性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。

（５）集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の３種類を行った。

（６）問１の〈居住地域の評価〉における『そう思う（計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の２つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。

（７）標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団（足立区在住の満20歳以上の男女）全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問４の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「当分は住み続けたい」と答えた人は、1,664人のうち40.5％であった。

回答者数が1,664人、回答率が40％前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.40％であるから、「当分は住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体（母集団）の42.90％から38.10％であると推定できる。

〈 標本誤差算出式 〉

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ｂ＝標本誤差
Ｎ＝母集団数（足立区の20歳以上人口）
ｎ＝比率算出の基数（回答者数）
Ｐ＝回答の比率（０≦Ｐ≦１）

〈 早見表 〉

回答の比率（P） 基　数（n）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,664	± 1.47	± 1.96	± 2.25	± 2.40	± 2.45
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 － 性・年代別 〉

回答の比率（P） 基　数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全　　体	1,664	± 1.47	± 1.96	± 2.25	± 2.40	± 2.45
男性（計）	724	± 2.23	± 2.97	± 3.41	± 3.64	± 3.72
20　代	57	± 7.95	±10.60	±12.14	±12.98	±13.25
30　代	98	± 6.06	± 8.08	± 9.26	± 9.90	±10.10
40　代	144	± 5.00	± 6.67	± 7.64	± 8.16	± 8.33
50　代	123	± 5.41	± 7.21	± 8.26	± 8.83	± 9.02
60　代	150	± 4.90	± 6.53	± 7.48	± 8.00	± 8.16
70歳以上	152	± 4.87	± 6.49	± 7.43	± 7.95	± 8.11
女性（計）	908	± 1.99	± 2.65	± 3.04	± 3.25	± 3.32
20　代	69	± 7.22	± 9.63	±11.03	±11.80	±12.04
30　代	118	± 5.52	± 7.36	± 8.44	± 9.02	± 9.21
40　代	170	± 4.60	± 6.14	± 7.03	± 7.51	± 7.67
50　代	154	± 4.83	± 6.45	± 7.39	± 7.90	± 8.06
60　代	141	± 5.05	± 6.74	± 7.72	± 8.25	± 8.42
70歳以上	256	± 3.75	± 5.00	± 5.73	± 6.12	± 6.25

（注１）Ｎはｎより非常に大きく、$\frac{N-n}{N-1} \fallingdotseq 1$とみなせるので、$\frac{N-n}{N-1}=1$として計算した。

（注２）「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」（計）の数とは一致しない。

（８）分類した項目の定義

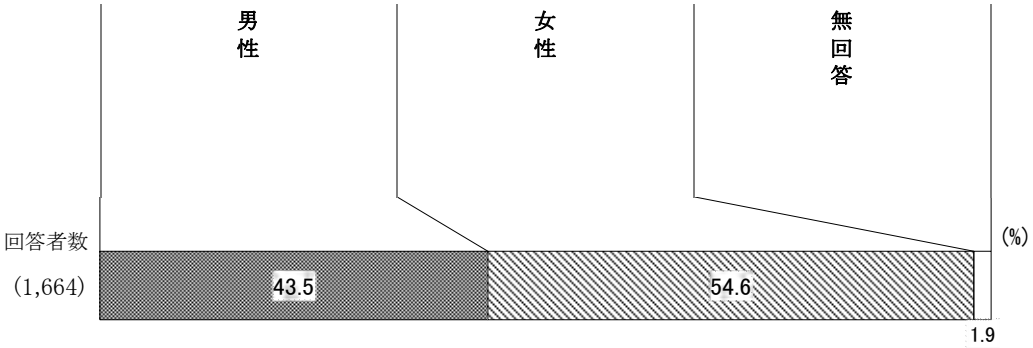
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

① 地　　域　　別‥‥（15カテゴリー）
② 性　　別‥‥（２カテゴリー）
③ 性・年代別‥‥（12カテゴリー）
④ ライフステージ別‥‥（７カテゴリー）
・独身期　40歳未満の独身者
・家族形成期　40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
・家族成長前期　本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
（家族成長小学校期）　本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
（家族成長中学校期）　本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
・家族成長後期　本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
・家族成熟期　本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
・高齢期　本人が65歳以上の人
（一人暮らし高齢者）　本人が65歳以上で一人暮らしの人
（夫婦二人暮らし高齢者）　本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
（その他の高齢者）　本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
・その他壮年期　本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
（壮年独身者）　本人が40歳～64歳で独身
（壮年夫婦のみ者）　本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
⑤ 住居形態別‥‥（８カテゴリー）
⑥ 職　　業　　別‥‥（８カテゴリー）
⑦ 就労（就学場所）別‥‥（６カテゴリー）
⑧ 居住年数別‥‥（５カテゴリー）

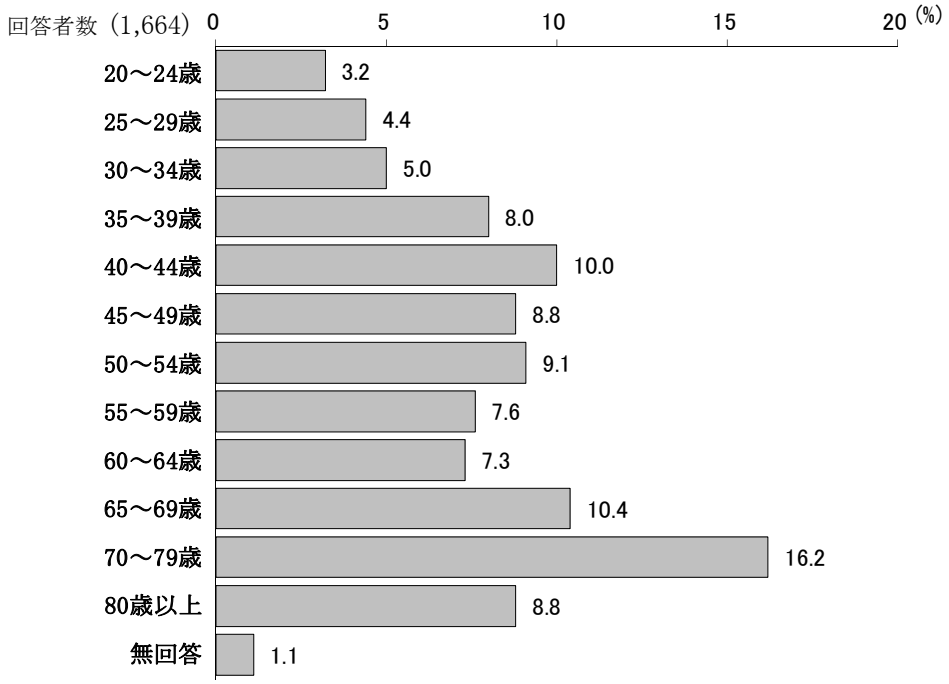
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

８．標本構成

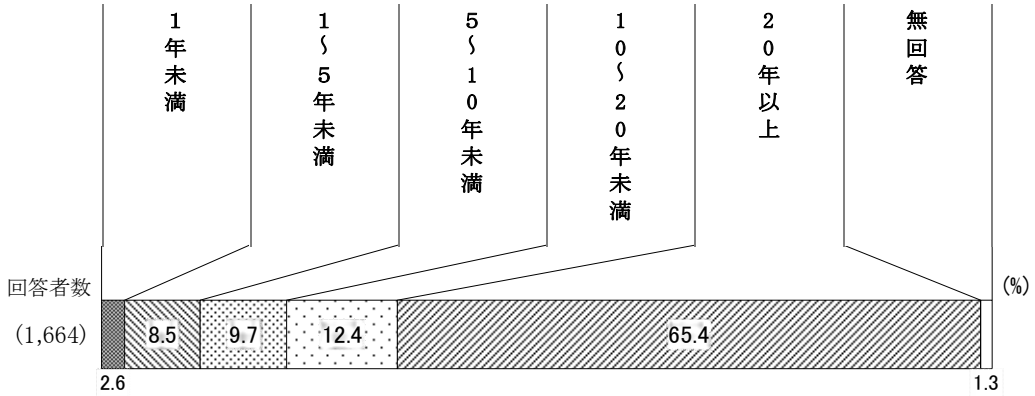
Ｆ１　性 別



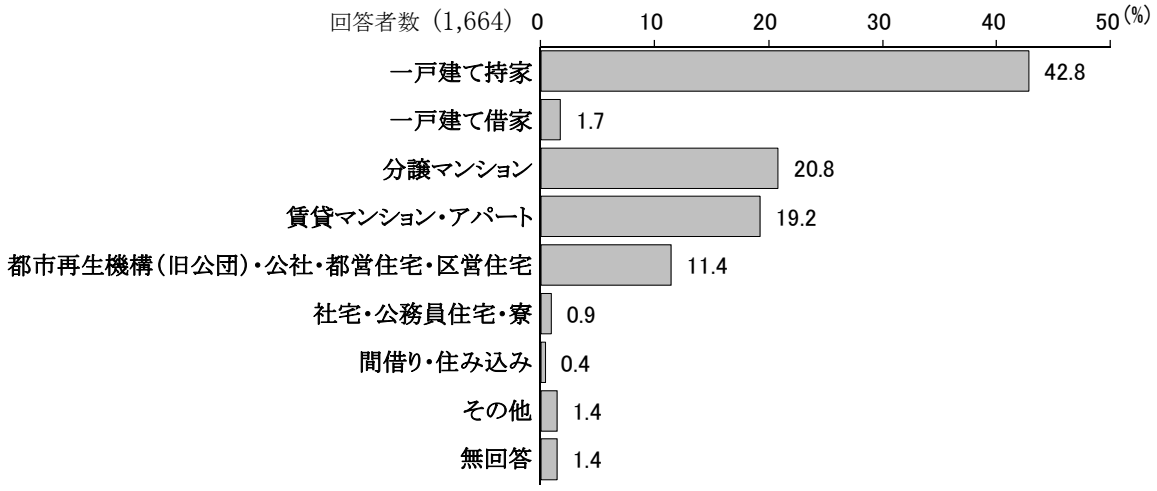
Ｆ２　年 齢



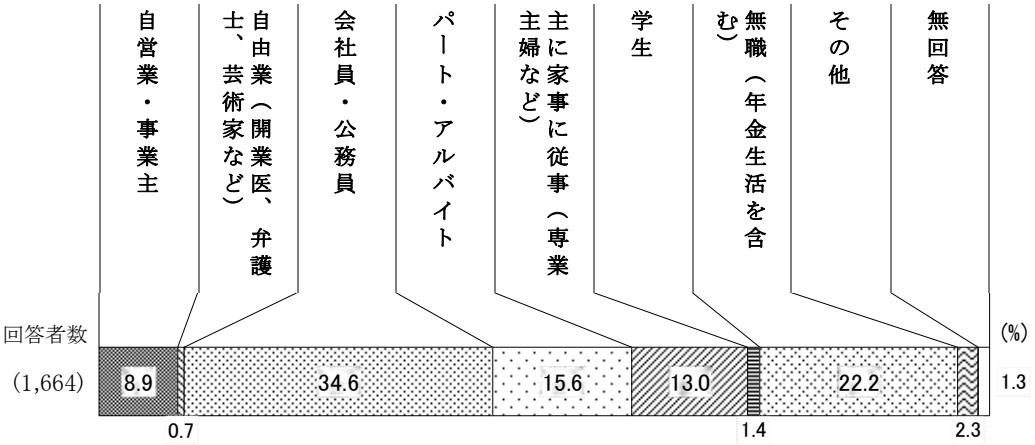
Ｆ３　居住年数



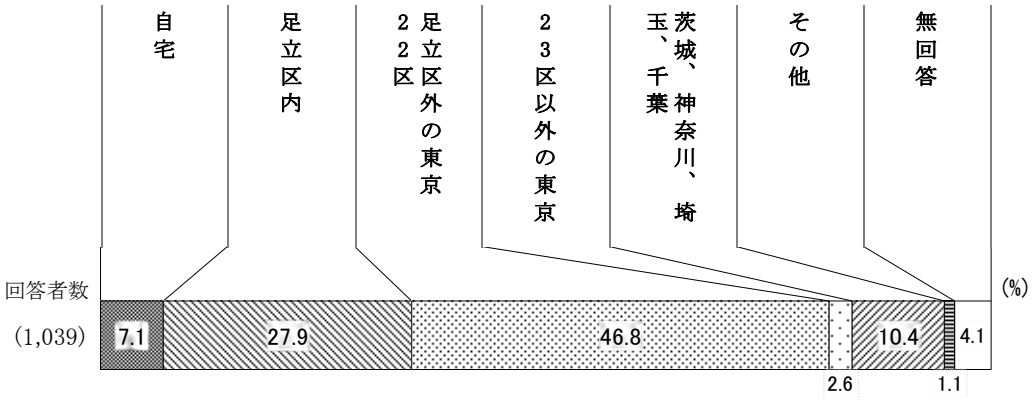
Ｆ４　住居形態



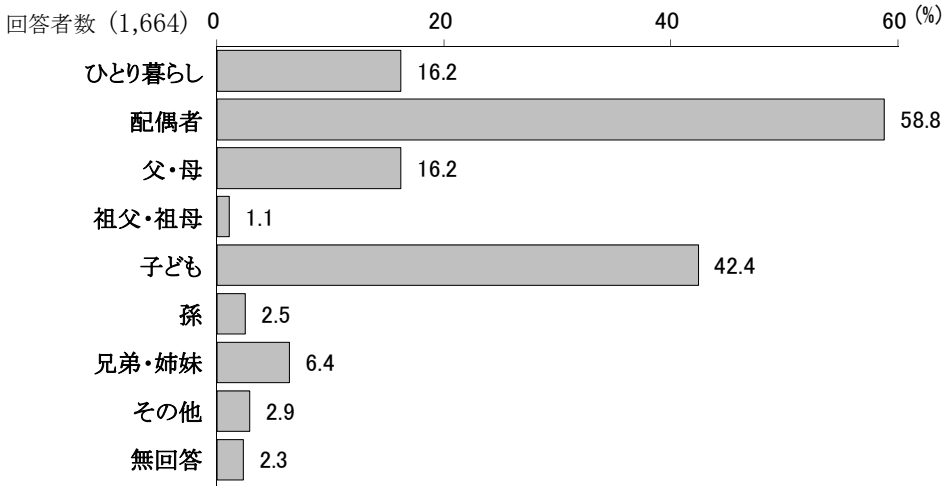
Ｆ５　職 業



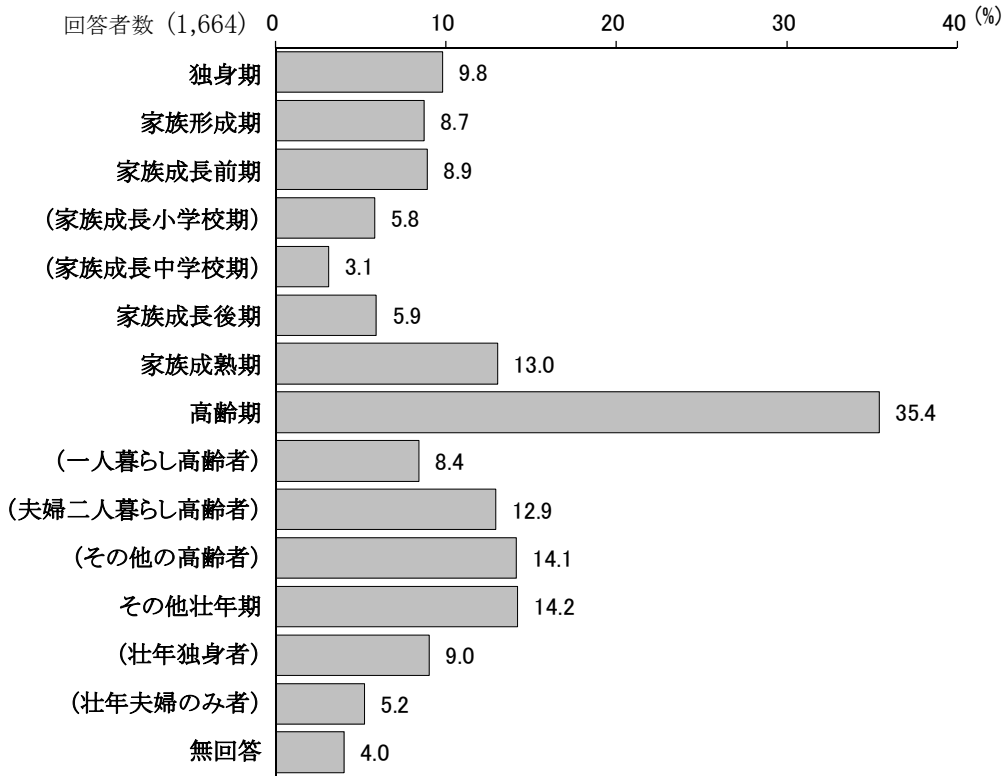
Ｆ６　就労、就学場所



Ｆ７　同居家族（複数回答）



Ｆ８　ライフステージ


回答者数（1,664）
0
10
20
30
40
(%)
独身期 9.8
家族形成期 8.7
家族成長前期 8.9
（家族成長小学校期） 5.8
（家族成長中学校期） 3.1
家族成長後期 5.9
家族成熟期 13.0
高齢期 35.4
（一人暮らし高齢者） 8.4
（夫婦二人暮らし高齢者） 12.9
（その他の高齢者） 14.1
その他壮年期 14.2
（壮年独身者） 9.0
（壮年夫婦のみ者） 5.2
無回答 4.0

第２章　調査結果の要約

１．定住性

居住地域の評価については、〈普段の買い物が便利である〉〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈快適で安全なまちである〉等、ほとんどの項目で肯定的評価が増加するという結果となっている。

しかしながら、〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉は、肯定的な評価が微増したとはいえ、依然として、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が６割を超えており、引き続いて、区民のマナー意識の向上が求められる。

また、〈防犯パトロール〉など防犯面については、平成28年度調査に比べて、【増えている】（「どちらかといえば増えている」＋「明らかに増えている」）が微増している。

このように、居住地区の利便性の良さ、環境面、防犯面への取り組みなどへの評価は比較的高い水準にあり、暮らしやすさへの評価をみても、全体として【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は今回81.3％と、平成28年度より僅かながら増加する結果となっている。

その一方、地域別でみると、第２、第11、第12、第14地域のように、【暮らしにくい】（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が２割を超えて、他の地域より高くなっている地域もあり、今後は、暮らしやすさへの評価の地域差を解消していくことが重要である。

また、【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）についても、今回77.2％と、ここ数年ほぼ横ばい状況にあり、暮らしやすさへの評価とほぼ対応した経年変化を示している。

全体として、各分野への区民の評価、暮らしやすさへの評価はいずれも徐々に高まってきており、今後も、各種の取り組みを一層強化し、暮らしやすさへの評価を向上させることによって、区民の定住意向を強めていくことが課題である。

２．大震災などの災害への備え

東日本大震災から約７年が経過したが、区民の防災意識や日頃の備えはどのようになっているのだろうか。

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は、今回は64.8％と、平成28年度調査結果（66.6％）と比べてやや低い数値となっており、依然として、震災後の平成24年度調査結果（73.9％）に比べて低い水準に留まっている。

このように、震災後に比べて、区民の防災への意識が低下している状況は続いており、日頃からの区民の防災意識を高めていく取り組みの必要性は変わっていない。

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「食料」が９割を超えて高くなっているのに対して、「医薬品（常備薬を含む）」は４割強、「救急セット」「簡易トイレ」は２割強に留まっており、備蓄内容に大きな差がある状況に変化はみられない。

また、水と食料の備蓄量については、いずれも「１日分以上３日分未満」が４割前後と高くなっており、「３日分以上１週間分未満」は約３割、「１週間分以上」は１割台に留まっている。

この結果は、平成28年度調査結果とほぼ同様であり、今後も、医薬品やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低３日分、できれば１週間分」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

さらに、災害時の水や食料の確保について「考えていない」という人が、今回39.4％と、平成26年度以降、横ばいの状態が続いているほか、今回「通常どおりスーパーなどで購入する」が30.0％と、平成28年度の25.6％から4.4ポイント増加している。

このように、東日本大震災直後に比べて、区民の防災への危機意識が低下しつつあることがわかる。今後も、防災意識の希薄な層に対して、日頃から災害への備えをしてもらうように継続的な働きかけが重要である。

次に、家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は、今回28.4％と、平成28年度調査結果（27.3％）とほぼ同様の結果となっている。

また、【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人は、その理由として、「面倒である」「建物の壁にキズをつけたくない」等と回答する人が、いずれも２割を超えており、依然として地震の際の家具転倒の危険性について認識のない区民も少なくない。

今回の調査では、地域の避難場所の認知状況をみているが、「知っている」が51.3％に留まり、「何となく見当がつく」程度の人が３割を超えているほか、「知らない」も１割を占めている。今後は、「あだち防災マップ＆ガイド」や「あだち広報」、スマートフォン対応アプリ「足立区防災ナビ」等の様々な情報媒体を活用して、区民の避難場所の認知度を向上していくことが重要である。

最後に、大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」「水・食料の備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」の３項目が、いずれも５割を超えて上位３位を占めるという回答傾向に変化はみられず、今後もこの分野への取り組みを推進する必要がある。

また、区民の半数以上が、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として避難所を想定していることを踏まえて、避難所における良好な生活環境の確保に力を入れていくことも重要である。

３．洪水対策

『足立区洪水ハザードマップ』を【見たことがある】（「自宅周辺の状況を理解した」＋「見たが内容までは覚えていない」）は今回65.1％と、平成28年度の調査結果（59.1％）よりも6.0ポイント増加しており、区民への周知が進んできている現状がわかる。しかし、「そのような地図はみたことがない」という若い世代も多く、今後も、このマップの存在を、性別、年代を問わず、広く区民に周知していくことが重要である。

次に、河川はん濫による浸水被害の際の対処としては、「避難する」が〈自宅付近が浸水したとき〉で48.5％、〈近所の人が避難しているのを見たとき〉で54.3％、〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉で30.9％、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が81.4％となり、〈足立区に大雨・洪水警報が出されたとき〉を除き、今回「避難する」が微増している。

また、荒川がはん濫した時の最初の避難先としては、「自宅の高層階（３階以上）」と「近くの学校や公共施設」がともに今回27.2％と、平成28年度の調査結果と比べて、ほぼ横ばい状況となっている。

今後も、『足立区洪水ハザードマップ』の認知度の一層の向上を図るとともに、河川はん濫時に、区民が適切な対処ができるよう、幅広い支援をしていくことが課題である。

４．区の情報発信のあり方

区はさまざまな広報媒体を活用し区民に情報を届けているが、区の情報が必要なときに得られているかという問いに対し、【得られる】（「充分に得られている」＋「ある程度得られている」）と回答した方が58.4％と、平成28年度調査の67.5％から減少している。その一方、【得られない】（「得られないことが多い」＋「まったく得られない」）と回答した方が20.6％と前回調査の14.4％より増加している。

また、情報が得られないことの理由として、「情報の探し方がわからない」と回答した方は46.4％と前回調査の31.5％から増加し、逆に「情報が探しにくい」と回答した方は17.5％と前回調査の31.5％から減少している。

今回の調査結果を丁寧に分析しつつ、あらゆる広報媒体を充実させ、区民がそれぞれのライフスタイル等に応じて必要な情報を得られる環境を整えていくことで、各数値を改善していく必要がある。

５．健康

『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が10.2％で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（29.8％）を合わせた【知っている】は40.0％を占めている。一方、「知らない」は58.0％となっている。

経年でみると、今回【知っている】が40.0％と、平成28年度調査の30.6％から9.4ポイント増加しており、健康な生活を送るうえでの野菜の重要性についての認識は区民の間に浸透してきていることがわかる。

特に女性では、各年代にわたって【知っている】が比較的高いが、一方で男性では【知っている】が低い等、区民の周知度には性別、年代による差があることから、区のキャッチフレーズの周知を一層推進していくことが重要である。

また、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについては、今回も「失明」「足の壊疽（えそ）」「人工透析」「口の渇き」等で高くなっているものの、いずれもここ数年横ばい状況を示している。

また、「網膜症」や「神経障がい（手足のしびれ）」のような《重篤な合併症の兆候》を示すものについては、依然として【知っている】が２割台から３割台に留まっている。

今後も、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについて、継続して区民の理解を深めていくことが重要である。

糖尿病の予防には、「食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である」と言われているが、「食べている」は66.3％を占め、経年でみると横ばい状況を示している。

また、野菜の摂取量については、「１日350ｇ以上」が目標とされているが、実際に【できている】（「できている」及び「だいたいできている」）は、今回4.4ポイント増加している。

しかしながら、男性では【できている】が各年代にわたって女性より低くなっているほか、女性でも20代では低くなっており、引き続き、この年代を中心に健康維持のための野菜摂取の重要性を啓発していくことが重要である。

次に、体調や習慣についてみると、〈現在の健康状態はよい〉が70.5％、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉が68.8％と、いずれも高くなっている。とくに〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉は、平成28年度調査の63.7％から5.1ポイント増加しており、医療環境は向上している。

また、健康維持のために実行している、心がけていることとしては、ここ数年、「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が６割を超えて高くなっている。今後も、健康づくりのために、区民に対して、食生活の改善、運動の実践、各種健診・検診の受診等に取り組んでいくよう促していくことが必要である。

とくに、今回、区民のがん検診についての意識をみているが、「忙しくて、平日は受けられない」が25.7％、「自分が対象かどうかわからない」が18.9％、「がん検診を申し込む手続きが面倒である」が18.6％と、区ががん検診を実施する上で、様々な課題があることがわかる。今後は、区民ががん検診を受けやすい環境を整備し、受診率の向上を図っていくことが重要である。

６．スポーツ

日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週２回以上」が21.1％を占め、「年に数回（時間は問わない）」まで含めると【運動している】全体は55.0％となっている。その中でも「週１回程度（時間は問わない）」以上を実践している人の割合は42.2％である。一方、「運動・スポーツはしていない」は41.0％である。年代別・性別でみると、「30分以上の運動を週２回以上」が、男性では70歳以上が32.2％、女性では60代が24.8％で最も高くなっている。

次に、継続的に実施している運動・スポーツをみると、「ウォーキング」が44.0％で最も高く、続いて「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（18.9％）となっている。

また、運動・スポーツの実施場所をみると、「自宅周辺」が37.9％と最も高くなっている。一方、「区外施設」は10.3％となっている。

2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック大会以後、パラリンピックが注目されている中で、「障がい者スポーツへの意識・行動」を聞くと、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が17.7％で最も高くなっている。一方、「特にない」が48.6％を占めている。

また、「スポーツボランティア活動への意識・行動」をみると、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」等、いずれも１割以下に留まっている。一方、「特にない」が58.2％を占めている。

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること」としては、「交通網・交通インフラの整備」が23.9％で最も高く、以下「会場での応援活動」（17.0％）、「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」（12.1％）の順で続いている。一方、「特にない」は33.2％となっている。

さらに、足立区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度（高齢者免除制度）については、33.9％が何らかの制度改正を望んでいるものの、「現行のまま継続するべき」が44.0％で最も高くなっている。

今後は、障がいの有無に関係なく、だれもが気軽に運動・スポーツができる環境をさらに充実させていくとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた区の取り組みを促進させ、大会後のレガシーに繋がるような施策の展開が必要である。

７．ビューティフル・ウィンドウズ運動

ビューティフル・ウィンドウズ運動については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）は今回46.2％と、ほぼ横ばいを示している。

しかしながら、地域や年齢によって、【知っている】の数値が異なるほか、「知っていて、活動を実践している」区民は、いずれの年代、地区でも1割に満たない状況にある。今後は、この取り組みへの理解を広めていくとともに、区民の活動への参加を促進していくことが重要である。

今回、『花のビュー坊プレート』の認知状況をみているが、「使用している」は2.1％で、「見たことがあり、名称なども知っている」「見たことはあるが、名称は知らなかった」「名称などは知っているが、見たことはない」を合わせた【知っている】は30.8％となっている。一方、「見たことはない（初めて知った）」は66.8％を占めていることから、区民への認知度はまだ低く、玄関先や店先で花を育てる人を増やすために、今後も、継続的に周知を図っていくことが求められる。

一方、足立区内の刑法犯認知件数が減少していることを「知っている」人は47.2％と、平成26年度調査結果以降、増加傾向が続いている。また、居住地域の治安状況については、平成29年度調査結果では【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が54.3％と、平成28年度調査結果（54.1％）を僅かながら上回り、平成23年度調査以降の増加傾向が続いている。この結果からは、区民の体感治安は着実に改善されてきていることがわかる。

しかし、治安状況に対する評価にはかなり地域差があるほか、若い女性では【悪い】との評価も高く、今後も、地域や性別、年齢にかかわらずすべての区民が、安心して生活できるよう、ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロール等に取り組んでいくことが必要である。

【良い】と回答した人については、平成28年度調査結果と同様に「自分を含めて、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が52.8％で最も多くなっている。また、治安対策として区に力を入れてほしいことについても、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が52.2％と、ここ数年と同様に高い比率となっており、防犯カメラに対する区民の期待は極めて高い。「安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール」「安全に配慮した道路、公園の整備」も４割前後と高くなっている。

一方、治安を【悪い】と感じる人では、今回、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が61.1％と、平成28年度調査の52.5％より8.6ポイントも増加している

前述したように、区の治安状況が改善していると評価する区民は年々増えており、区の取り組みは着実に成果をあげていると考えられるが、治安が【悪い】との回答が28.1％あり、依然として厳しい評価がなされている面もある。今後も引き続いて足立区を安心安全な街にしていくために、防犯カメラの設置促進などの取り組みに力を入れていくことが重要である。

８．環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が、今回も87.1％と最も高く、平成23年度以降、毎年僅かな数値の増減はあるものの、常に８割を超えており、《ゴミの分別》が区民の間にほぼ定着したことがわかる。また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」と「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」も、ここ数年５割を超えている。

今回、「Ｒのお店」の認知状況をみているが、「知っていて、利用したことがある」は2.2％で、これに「聞いたことはあるが、利用したことがない」（9.4％）を合わせた【知っている】は11.7％となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は83.8％となっている。

平成５年度より当事業を継続しているが認知度は低く、今後は効果的な３Ｒ推進事業を検討していく。

次に、この１年間に参加した活動をみると、「特に参加していない・特にない」は、今回38.2％と、平成28年度調査結果（40.3％）と比べて、ほぼ横ばいとなっている。

活動内容としては、ここ数年と同様に「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、今回も19.7％で最も高くなっている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」等も１割を超えている。一方、今後の活動への参加意向をみても、ほぼ同様の傾向が示されている。

９．「孤立ゼロプロジェクト」など

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）が今回28.7％と、平成28年度調査結果の30.5％と比べてほぼ横ばい状況となっている。地域別でみると、第３、第８地域では【知っている】がいずれも３割台半ばを占め、性・年代別でみると高年層で高くなっており、地域や年齢によってかなりの差がある。

また、「地域包括支援センター」の認知状況についてみると、【知っている】（「知っていて、業務内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」）は、今回53.7％となっており、ここ数年微増傾向を示している。

さらに、高齢者の孤立防止や見守り活動への参加意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は今回19.4％と、ここ数年横ばい状況にある。地域別でみても、【協力したい】が２割を超えているのは全15地域中８地域と留まっている。性・年代別でみても、【協力したい】が２割を超えているのは70歳以上の男性、50代から70歳以上の女性に限られている。

協力意向のある人では、その活動内容として、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が今回49.5％と、平成28年度調査結果の49.3％とほぼ同様の結果となっており、依然として第１位を占めているほか、『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などの調査活動も３割台半ばを占めている。

また、認知症高齢者、知的障害者、精神障害者などの人権を擁護するための成年後見制度が注目されている。この制度を【知っている】（「内容まで知っている」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）は今回58.8％と、平成28年度結果の59.8％とほぼ同様の結果となっている。

以上のように、地域包括支援センターの認知度や成年後見制度の認知度は高くなっているものの、孤立ゼロプロジェクトの認知度は依然として低く、高齢者の孤立防止・見守り活動への参加意向の状況もここ数年大きな変化はみられない。地域福祉を推進する上で、これらの取り組みは極めて重要な役割を果たすものであり、今後も、区民の事業に対する認知度の向上に継続的に強く取り組むとともに、活動への積極的な参加を促進していくことが必要である。

１０．協働・協創

「協創」について「知っている」は2.6％で、これに「聞いたことはある」（10.5％）を合わせた【知っている】は13.0％となっている。一方、「知らない」は84.5％を占めている。

この結果を見る限り、「協創」という言葉・内容について区民の認知度は低く、今後は、この考え方について広く区民の周知を図っていくことが必要である。

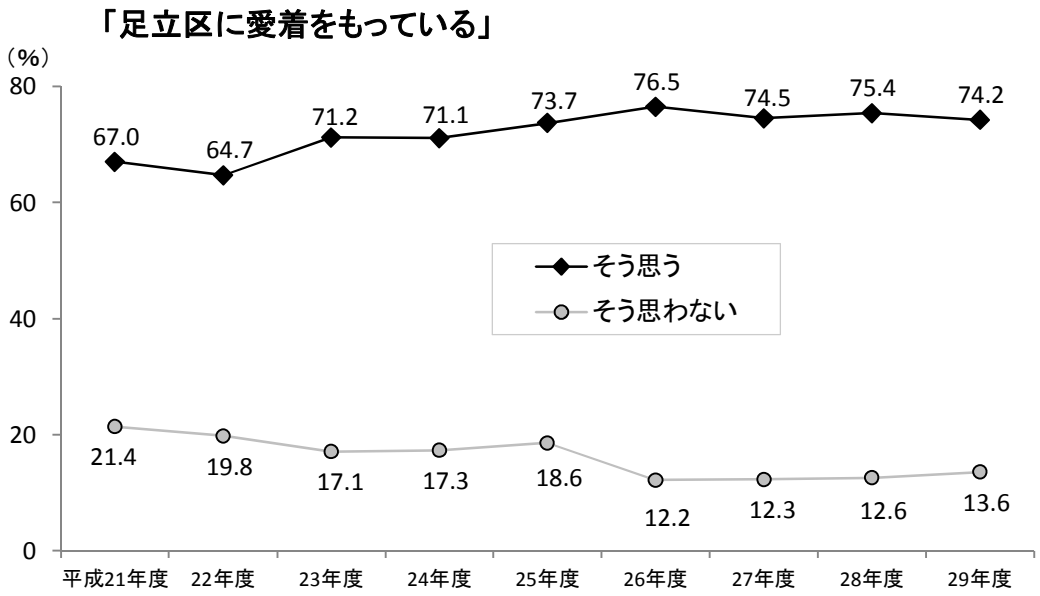
次に、「協創」を知っているという人について、その実践状況をみると、「既に、活動を実践している」が34.9％となっている。一方、「関心はあるが、特に活動していない」が48.8％、「関心がない」が16.3％となっている。

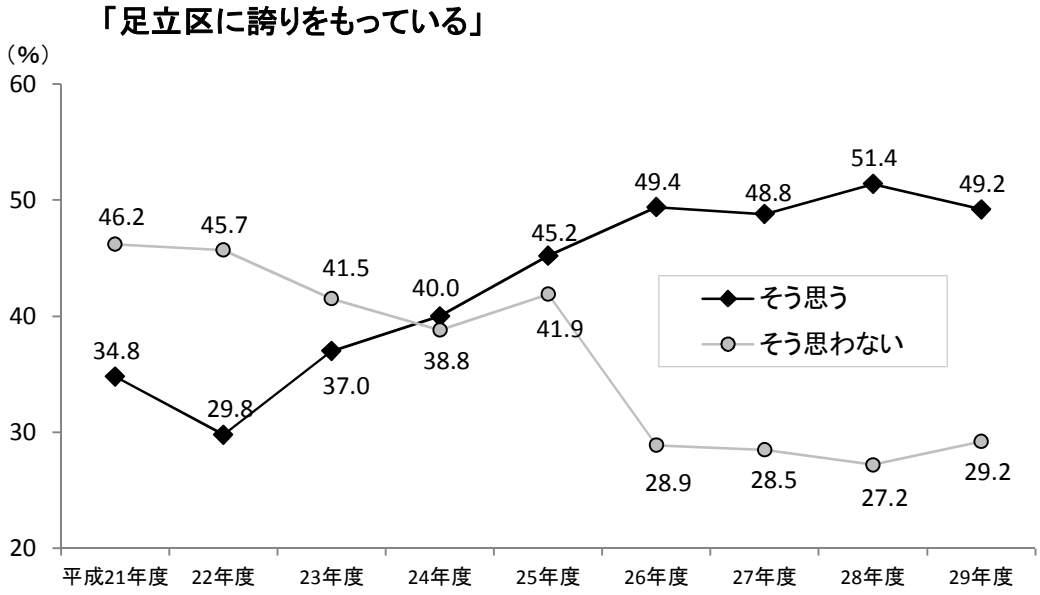
このように、「協創」について関心があっても、特に活動していない人が多くいることから、こうした区民の関心を「協創」の実践へと結びつけていくことが重要である。

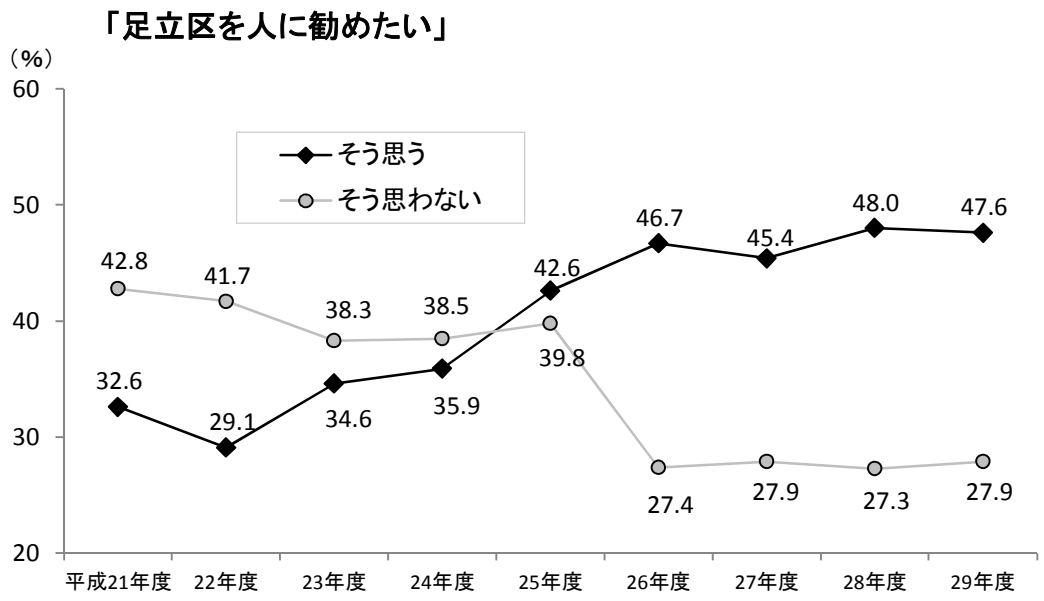
最後に、「協働・協創による事業が進んでいると思うか」については、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が15.7％となっているが、「わからない」という回答が65.4％と極めて高く、協働・協創による事業の内容や、その進捗状況を、区民が客観的に知ることができる仕組みをどのように構築するかが課題といえる。

１１．区の取り組み

〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の３項目について、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の比率をみると、〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉が、今回それぞれ74.2％、49.2％、47.6％となっており、ここ数年高い水準で安定している。このことは、区に対する愛着が、区民に広く根付いてきていることを示すものといえるだろう。







また、前述したように、足立区の重要な政策課題である治安の問題についても、【良い】との評価が今回54.3％と、平成23年度調査結果（39.9％）から14.4ポイント増加しており、その評価は徐々にではあるが確実に増加している。

さらに、地域の暮らしやすさへの評価や定住意向は横ばい気味であるものの、区全体に対する満足度は、今回【満足層】（「満足」＋「やや満足」）は今回61.5％と、平成28年調査結果（57.7％）より3.8ポイント増加している。

今回調査においても、前回調査と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細255頁を参照のこと）してみると、足立区の場合、「重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が、平均値より低い」分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野が、「高齢者支援」「障がい者支援」「防災対策」「治安対策」「行政改革」「交通対策」「学校教育対策」であるとの結果は変わっていない。しかし、今回16の分野で【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が、平成28年度の調査結果を上回っており、「治安対策」をはじめとした各分野への満足度の高まりが、区全体への評価の向上につながっているといえる。

また、区政全体に対する満足度が高くなるほど、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」とも増加しており、両者の間の相関関係は明らかである。

今後も、「高齢者支援」「障がい者支援」「防災対策」「治安対策」「行政改革」などの区の重点的課題の解決に、行政と区民、関係機関が連携し、総合的かつ効果的な取り組みを推進することによって、区民の区政全体への満足度の向上を継続し、足立区を、すべての区民が愛着と誇りの持てる「まち」に発展させていくことが求められよう。

区に対する気持ち　経年比較／性・年代別

１　足立区に愛着をもっている

全体	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
	73.7	76.5	74.5	75.4	74.2

(%)

男性	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
20 代	62.4	77.0	82.0	66.7	68.4
30 代	69.8	77.2	67.3	67.7	74.5
40 代	75.3	76.6	76.5	74.8	75.7
50 代	78.6	80.6	73.0	82.1	82.9
60 代	73.6	76.6	77.7	82.6	69.3
70 以上	77.3	85.9	76.0	82.4	81.6

女性	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
20 代	70.6	67.1	67.5	66.3	72.5
30 代	64.9	77.6	69.0	66.7	66.9
40 代	73.3	71.4	75.1	73.5	73.5
50 代	73.6	68.7	74.7	75.7	74.0
60 代	77.0	76.9	77.1	73.9	77.3
70 以上	77.7	76.5	76.5	80.0	74.6

２　足立区に誇りをもっている

全体	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
	45.2	49.4	48.8	51.4	49.2

男性	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
20 代	24.7	44.3	54.1	44.9	36.8
30 代	45.0	47.5	37.6	47.5	42.9
40 代	47.6	50.6	48.8	51.9	54.9
50 代	44.8	50.4	47.6	52.7	57.7
60 代	52.3	51.5	52.2	59.7	46.0
70 以上	59.1	65.9	63.0	68.2	59.9

女性	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
20 代	30.6	35.4	37.7	33.7	34.8
30 代	28.2	38.8	40.1	41.5	34.7
40 代	33.0	42.3	42.8	42.7	47.1
50 代	41.0	38.1	39.9	45.1	41.6
60 代	50.3	50.0	51.4	50.3	58.2
70 以上	58.3	57.3	57.7	60.0	55.5

３　足立区を人に勧めたい

全体	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
	42.6	46.7	45.4	48.0	47.6

男性	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
20 代	23.5	62.3	44.3	43.6	42.1
30 代	47.3	49.5	36.6	48.5	49.0
40 代	47.1	49.4	51.2	55.6	56.9
50 代	42.8	48.2	49.2	50.9	52.0
60 代	45.4	46.1	48.9	54.2	38.0
70 以上	51.5	55.1	54.0	59.1	55.3

女性	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
20 代	37.6	39.2	32.5	41.6	43.5
30 代	38.5	42.5	41.5	40.0	42.4
40 代	44.3	43.9	41.3	42.7	47.6
50 代	42.4	40.3	39.9	47.9	42.2
60 代	34.0	42.9	45.7	43.0	53.2
70 以上	44.1	46.3	50.0	49.0	47.3

区政満足度の分析　経年比較／暮らしやすさ／定住意向／情報の入手／治安

全体	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
満足	59.1	53.2	53.3	57.7	61.5
不満足	27.6	27.6	27.4	25.6	24.0

(%)

１　地域の暮らしやすさと区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
暮らしやすい	3.9	16.6	2.2	0.4	3.5
どちらかといえば暮らしやすい	1.8	32.0	11.5	1.8	8.3
どちらかといえば暮らしにくい	0.3	5.9	6.0	1.1	2.4
暮らしにくい	0.1	1.0	0.7	0.4	0.2

２　定住意向と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ずっと住み続けたい	3.8	22.2	4.5	0.6	5.9
当分は住み続けたい	1.6	23.5	9.3	1.2	5.3
区外に転出したい	0.2	2.4	2.9	0.7	0.8
わからない	0.3	7.5	3.9	1.1	2.4

３　必要な時に必要とする区の情報の入手状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
充分に得られている	1.0	3.1	0.5	0.1	0.4
ある程度得られている	3.5	32.3	10.6	1.2	6.6
得られないことが多い	0.4	5.8	2.9	0.6	2.5
まったく得られない	0.2	4.1	1.7	0.6	2.1
必要と思ったことがない	0.7	7.9	3.2	0.8	2.0
区の情報に関心がない	0.2	2.7	1.6	0.4	0.4

４　居住地域の治安状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
良い	1.7	4.8	0.9	0.1	0.8
どちらかといえば良い	3.1	29.3	8.2	0.8	5.6
どちらかといえば悪い	0.6	12.4	6.9	1.2	2.6
悪い	0.1	2.0	1.4	1.0	0.5
わからない	0.6	7.4	3.1	0.5	4.4